

総務常任委員会記録

令和2年1月28日(火)午前9時27分～午前9時42分(9階908会議室)

○出席委員(9名)

委員長	白川 敏明	副委員長	鈴木 正実
委員	羽田 房男	委員	後藤 善次
委員	高木 克尚	委員	大平 洋人
委員	尾形 武	委員	村山 国子
委員	宍戸 一照		

○欠席委員(なし)

○議題

所管事務調査「人口減少等の社会変化を見据えた持続可能な行政の在り方に関する調査」

1. 行政視察について
2. その他

午前9時27分 開 議

(白川敏明委員長) ただいまから総務常任委員会を開会いたします。

初めに、行政視察についてを議題といたします。

来週実施いたします行政視察での各視察先の特色ある取り組みについて、正副委員長手元で整理いたしました。本日は、その内容をもとに、各視察先での調査のポイントを確認いたしたいと思っております。

それでは、資料をごらんください。初めに、泉大津市ですが、視察を行う内容は、泉大津市が総務省の業務改革モデルプロジェクトに採択され実施した業務改革推進プロジェクトであります。

泉大津市が抱える課題としては、2040年には2015年に比べて人口が約20%減少し、生産年齢人口も約30%減少すると予想されるなど、全国平均よりも人口減少率が高くなっていること。財政難により職員数を削減したことにより、類似団体より少ないことがあります。

そこで、職員が担うべき業務に注力できる体制を構築し、人口減少時代においても市民サービスの維持向上を実現できる自治体モデルを検討するため、業務改革推進プロジェクトに取り組んでおります。

そのプロジェクトは、市の全体的な業務改革の取り組みで、窓口担当課と全庁的な内部管理事務を担う課の計12課を対象に業務の棚卸しを行い、その結果をもとに、業務改善の手法としてICT活用などの検討を行っております。

具体的な手法としては、現行業務を、判断が必要であったり、職員の権限での実施が必要なコア業務、職員以外での実施の検討の余地があるノンコア業務に分類し、業務の現状把握、分析を行い、他自治体との共同開発や利活用を前提にAI、RPA、アウトソーシングを検討するものであります。また、近隣の7自治体やAI開発企業等も参画するなど、他の自治体や民間との連携も図っております。

業務改革を実行する庁内の体制としては、市長をトップとした行財政改革推進本部会議があり、その所管課は総合政策部政策推進課となっております。

それらの内容をもとに、前回協議させていただいた調査の方向性を踏まえた視察のポイントとしては、業務改革による市民サービスの向上への効果をどのように捉えているか。今後の業務改革におけるプロジェクト担当課であり、旗振り役となろうと思われる政策推進課の業務範囲と各課の関係についてといったことを質疑等で確認してくる必要があると思われま。

次に、豊橋市であります。豊橋市ではICT推進の取り組みについてと、岡崎市とのシステム共同利用の取り組みについてを視察する予定となっております。

そのうち、システム共同利用については、取り組み以前の課題として、システムの複雑化や、運用、保守費用の高どまり、災害発生時の業務継続性の確保といったことがあったようであります。

そのため、システムの導入の際のインシヤルコスト、ランニングコストを縮減し、かつ情報セキュリティの向上のため、システムの他自治体との共同利用を導入しております。

具体的には国保・年金システムと税総合システムで、岡崎市と共同でクラウドによる共同利用を行っております。

自治体クラウドについては、国においても平成30年6月15日に閣議決定された世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画等で導入を促進することが明記されているように、今後全国的に重要な流れとなってくると思われますが、福島市においてははまだ導入していない分野であります。

参考として、総務省の資料2-3、自治体クラウドの更なる展開についてを配付しております。1ページに上記内容の記載がございます。ごらんください。

そのような中、豊橋市においては、過去の経過として、平成22年、近隣の東三河地域の副市長会議において共同化の申し合わせがされ、その後、情報システム広域勉強会等を開催しておりますが、平成23年度以降は、隣の西三河地域にある岡崎市と2市での取り組みを進め、クラウド化を実現しております。

本市も今後クラウド化に取り組むのであれば、なぜ東三河地域での共同化が実現せず、岡崎市と2市でのクラウド化が実現したのかという経過も重要なポイントになってくると思われま。

また、市役所内では実際にシステムを利用している部署と情報化担当の部署が異なっており、導入に向けて庁内でどのように取り組んだのかといった要素も重要ではないかと思われま。

調査の方向性を踏まえたポイントとしては、全体的なICT推進の取り組みについても伺うため、その取り組みの目的と市民サービスへの効果についてや業務改革担当部局などとの関係も含めた全庁的なICT化の推進体制について確認する必要があると思われま

最後に、八王子市であります、八王子市では平成30年度に情報化計画を策定し、その計画をもとにICT化の取り組みなどを進めております。

計画の中で課題とされている点としては、AI技術の進歩等による社会情勢の変化が挙げられ、その課題に対応するため、ICTを活用した行政サービスの向上、ICTを活用した行政運営の効果、効率性の向上、情報セキュリティー対策の強化を目的として、さまざまな取り組みが計画されております。

具体的な取り組みの一例としては、電子申請の拡充、AIやRPAによる業務の自動化、ICTに対応できる人材の育成などが挙げられております。

なお、情報化の所管課は行財政改革部の情報管理課となっております。

最後に、調査の方向性を踏まえたポイントですが、ICTの取り組みの目的と市民サービスへの効果をどのように捉えているか、ICT化の推進体制について、行財政改革等、市全体の業務改善との関連についてなどを確認していただく必要があるかと思われま

なお、お手元に参考資料として配付させていただいておりますが、八王子市の行財政改革大綱にはICT技術の活用による実施手法の見直しとして、RPA等の活用が明記されております。

以上が正副委員長手元で取りまとめた視察先の特徴と視察のポイントであります、委員の皆様からほかにポイントとなるべき事項など、ご意見がございましたらお願いいたします。

(**宍戸一照委員**) 泉大津市で、この業務の洗い出しというかをされていると、されたという取っかかりですね。それから、八王子市の資料を見ると、やっぱり一番最初に、RPAツールの活用による業務の自動化で洗い出しをした。だから、やはりその洗い出しの手法というか、そういうものをどういうふうにしたかということをおぼることによって、我々も当局に対して丁寧でできるのかなと思うので、その辺がこの調査の方向性の中に加えていただければ。豊橋市は別としても、泉大津市と八王子市は同じなのかなと。取っかかりがそこだと。なので、そこを少し、その手法というか、そういうものを学べれば、調査できればなど、これを見て思いました。取っかかりとしての部分。

(**白川敏明委員長**) それはそうお聞きいただければと思います。

(**高木克尚委員**) 泉大津市で、業務の棚卸しの結果の説明の中でコア業務とノンコア業務なんて、何か複雑な表現を使っているのですけれども、何か解説を見ると、職員がしなければなければ業務とそうでない業務、そんなことを言ったら、自治体固有の業務と云ったら課税と戸籍登録と選挙しかないもので、それ以外は全部、委託という表現にしないで、何でこんな表現を使っているのか、誰か説明できませんか、これ。委託とかって言いたくないのかな。

(**宍戸一照委員**) やっぱりそういうようなことでなければ。主幹となる部分のコアという部分を強調

したいのではないの。

(羽田房男委員) そういう文字でわからないように、ふわっと。日本語で指摘すると非常に角が出るので、こういう外来語とか、つくった言葉でやると、非常に、あれっと、こういうやわらかく聞こえるというイメージを持ってこういうものは進めるのです、具体的に。本質的なことを出さない。これが多分合理化の進め方ですから。

(宍戸一照委員) だから、これを結果として泉大津市がコアとノンコア業務どういうふうに分けたのかということも、結果として。

(白川敏明委員長) それもお聞きする必要があります。

(後藤善次委員) 要するに出せる、外に出せるところと出せないところを区分けして、それをコアとノンコアという表現にしたわけですね。

(白川敏明委員長) それも当日お聞きする。

(宍戸一照委員) そう言うてはなんだけれども、人口7万5,000ぐらいのあれが、それでこの豊橋市の周辺の東三河地区というのはそんな、西三河地区か、東三河地区でやろうとしたのにもかかわらずやらない。やっぱりあそこは小さなまちが多いわけでしょう。小さな市が多いわけだから、コストというものを考えた場合は、これだけでどうなのと思ったときに、岡崎市というのは人口規模が同じぐらいだから、こうなってくると豊橋市と岡崎はちょうどいいなと思ったけれども、それ以外の小さなまちはなかなかコストを考えるとどうなのだろうと。これは、泉大津市というのはやっぱり総務省の補助があるからでしょう。

(白川敏明委員長) その辺のことも調査していただきたい。そのほかにございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(白川敏明委員長) それでは、行政視察についてはそのように進めさせていただきたいと思います。

それでは次に、その他を議題といたします。

正副委員長からは以上となりますが、そのほか委員の皆様から何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(白川敏明委員長) それでは、以上で総務常任委員会を終了いたします。

午前9時42分 散 会

総務常任委員長 白 川 敏 明